園だより

No.3

令和５年５月２日

大沢幼稚園園長　長友　六月
TEL（762）4389（代）
FAX（762）4386
http://www.ohsawa.ednet.jp/
緊急連絡先　080-2344-7595

新型コロナは３年半が経ち季節性インフルエンザと同様の扱いになりますが、戦争は未だに終わりが見えません。戦争ほど愚かなことはない。食べる物、着る物、住む処を奪い、子どもや女性、若者の未来を奪う。いかなる理由があろうと戦争には断固反対します。戦火が広がり、取り返しのつかない事態にならないことを心から願います。園では、折に触れ、過去に日本も戦争をしたことを園長から話をします。そして、平和がいかに大切なものであるか、困っている人を助けることの大切さについて話をしています。目を背けたくなりますが、子ども達が大人になった時に平和な世界であるためには、幼いころから世界に目を向け、大事なことは家族で話をする習慣を持つことが大切です。あくまでも、年齢や理解度そして、感じ方に応じて無理の無いようにお願いします。

改めて、春はやっぱりいいですね。春の陽は柔らかく、優しく、木々や草花にまるでジョウロで水をあげているようにそそがれています。そして、その光は人の心を明るくし、その温かさは人の心を温かくする。暗さと冷たさほど人の精神に厳禁なものはないと思います。そして、こんなことを言っている人がいます。

「生長は、みな日光の下にある。生長するものは、みな日光を求める。幼児は生長するものである。保育は幼児を生長させることである。保育者の理想は日光である。」（倉橋惣三）

春はやっぱりいい。春は成長がみてとれる。上手に伸ばしてあげたいものです。

＜今月のうた＞

今月の歌は「めだかのがっこう」です。作曲は大沢幼稚園の「園のうた」を作曲された中田喜直先生です。中田先生については、何かの機会にお話したいと思います。作詞　茶木滋（ちゃきしげる）について、詩のエピソードをご紹介します。茶木さんは横須賀市汐入の出身です。三笠公園（戦艦三笠が展示してあります）に行ったところ、公園入口の脇に碑を見つけました。それによると、昭和25年、ＮＨＫからの依頼を受けた茶木さんは昭和21年の春の出来事を思い出しました。その頃、茶木さんは小田原市に疎開していましたが、息子（当時６歳）を連れて郊外の荻窪に買い出しに行かれました。荻窪用水のほとりを歩いていると、息子さんが用水にメダカの群れを見つけ、茶木さんが用水に身を乗り出すと、メダカは素早く隠れてしまいました。すると息子は「ここはめだかの学校だもん、待っていればまた来るよ。」とつぶやいたそうです。そっと覗くと、メダカたちが元気に泳ぐ姿を見ることができたそうです。この経験から詩が生まれたということです。私もこの場所を訪れてみました。今でもメダカがおよいでいて、近所の子どもが覗き込んでいました。

めだかのがっこう

作詞　茶木　滋
作曲　中田　喜直

１、めだかのがっこうは　かわのなか
そっとのぞいてみてごらん　そっとのぞいてみてごらん　みんなでおゆうぎ　しているよ
２、めだかのがっこうの　めだかたち　だれがせいとかせんせいか　だれがせいとかせんせいか　みんなでげんきに　あそんでる
３、めだかのがっこうは　うれしそう　みずにながれてつーいつい　みずにながれてつーいつい　みんながそろって　つーいつい

お知らせ

○**高校生**以上の社会体験の一環の場として、園を活用して欲しいと思っています。園児の兄姉や従兄弟でも幼稚園の先生を目指している生徒さん。園児にとっては、異年齢との関わりが大変大事です。夏季保育や学校の休みの日に待っています。お知らせください。

○５月より、新たに**保育補助員１名**が仲間入りしてくれます。よろしくお願いします。